



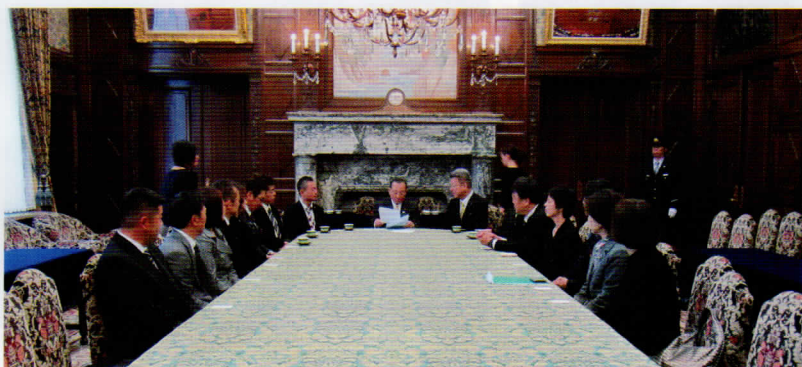
福井県PTA

◆発行者: 福井県PTA連合会 会長 山本久徳 広報委員会

◆発行所: 〒918-8135 福井市下六条町14-1 (福井県生活学習館2階) TEL 0776-41-4253 FAX 0776-41-4333

◆ホームページ: <http://www.fukui-pta.jp> (公社)日本PTA全国協議会 <http://www.nippon-pta.or.jp/>

◆E-mail: mail@www.fukui-pta.jp



CONTENTS

◆第55回 福井県PTA連合会 研究大会 全体会 2・3

◆第55回 福井県PTA連合会 研究大会 分科会 4・5

◆「一筆啓上・我が家の三原則」優秀作品発表 6

◆ドクター通信 7

◆日本PTA全国協議会 表彰式 8

◆福井県選出国議員への請願活動報告 8

◆西川知事と県PTA連合会役員との懇談会 9

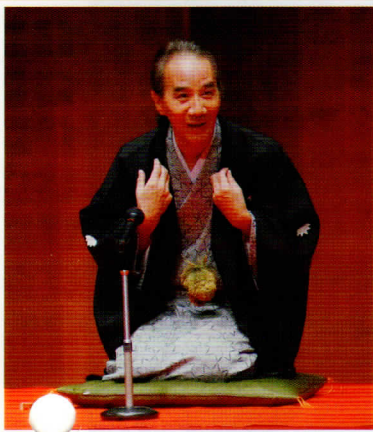
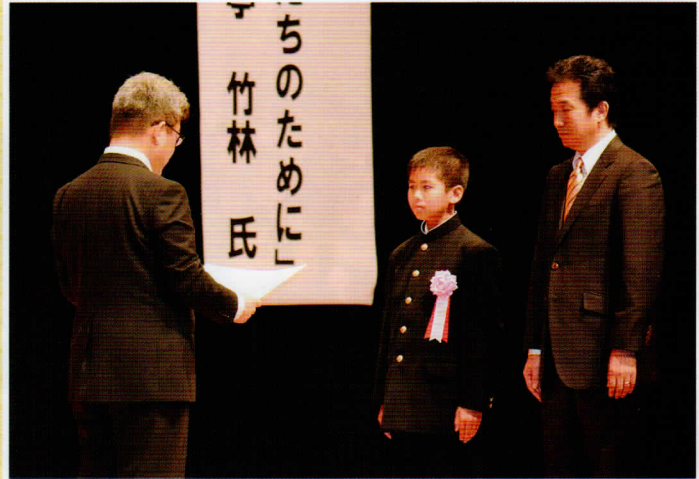
◆ネットモラルキャラバン隊 10

◆編集後記 10

連合会研究大会 全体会

ありがとうございます～

平成25年10月26日(土)
ユニー・アイふくい



PTA活動に取り組んで

福井県PTA連合会 会長 山本久徳
(大野市 開成中学校)

今年度もみなさま方のお力を得て、県PTA研究大会を開催させていただきました。みなさまの学校でのPTA活動につなげていただけたような内容も見直してきました。それぞれの分科会では、率直に意見が交換され、PTAとしての熱い姿があり、大変嬉しく思いました。

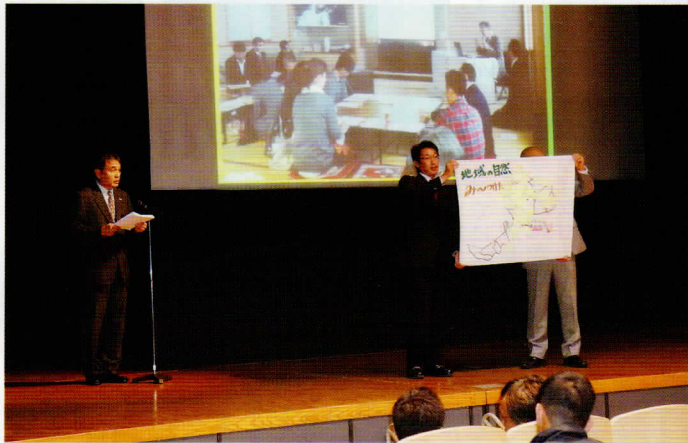
PTA活動では仕事や普段の生活では体験できないことやつながりを広げることができます。PTA活動の問題点・課題など同じ目的を持つ仲間と話し合い、PTAの問題は私たちPTAで解決していくしかありません。お互いに違う価値観を認め合い、活動できる時間や内容が違うことも承知しなければ気持ちよく活動を進めることはできません。できることを持ち寄って、子どもたちのために活動をするんだという気持ちを大切にしながら、力を入れすぎずやっていきましょう。

公私ともに忙しい今日、PTAの役も敬遠されることが多くなってきたように感じます。しかし、PTA活動などでも我が子に見せることができる姿勢で、積極性をもって臨んでいただきたいと思います。子どもは言われたことはなかなかしてくれませんが、親のすることは自然と同じことをしているようです。PTAは年度ごとにメンバーが替わりますが、運動の前に柔軟体操をするように、会議の前にはアイスブレイクなどを取り入れて、発言しやすい、コミュニケーションをとりやすい雰囲気を作って新年度の活動もスタートしていただき、これまでの活動で取り組んで良かったと言う意見を次の年度にもつなげていただけたらと願っています。

小・中学校のPTAを卒業されるみなさまには、これまでご理解とご協力をいただきましたことに心から感謝を申し上げます。これからも引き続き地域の子どもたちを見守っていただけますようお願いいたします。

第55回 福井県PTA

子どもたちの幸せ みんなでサポート ～笑顔と



研究大会を終えて

総務委員長 栗原 泰道(坂井市 木部小学校)

今大会は「子どもたちの幸せ みんなでサポート」の笑顔とありがとうがこだまするよう「く」をテーマに「分科会」「二筆啓上・我が家の三原則表彰」「講演会」の三部構成で行われました。前日の台風により開催も危ぶまれた中の研究大会でしたが、県内各地より約434名のPTA会員の皆様のご参加をいただきました。多くのご参加をいただき心から感謝いたします。

まず、福井県PTA連合会常置委員会が委員会活動に関するテーマに沿った5つの分科会を開き、PTA活動や地域・家庭教育、子育てに関する講演会や会員の皆様が直接話し合えるようなディスカッションを行いました。参加された皆様の真剣で積極的な取り組みに、保護者でありPTA会員である私たちは、同じような思いを持って教育にも家庭にもPTA活動にも取り組んでいるのだとうれしく思いました。

時間の都合で、もつと話し合いたかったとのこと意見も多数いただき、このような機会をもつと増やしていく必要性を感じました。

次に家庭での生活習慣のきまりと家族間のメッセージを募集した「一筆啓上・我が家の三原則」の入賞者作品の発表・表彰が行われました。今年度は7248通のご応募をいただき、どの作品も家庭での生活習慣の大切さやメッセージに込められた親子の愛情や温かさを感じさせてくれる素晴らしい作品でした。表彰式にご出席いただいた親子からは緊張した中にも普段の家庭での暖かな様子や笑顔を見ることが出来ました。多数のご応募をいただきありがとうございます。この事業が浸透し皆様からの関心が得られていることをうれしく思います。

昨年までの「子育て研修会」を研究大会に集約した講演会では、講演者に落語家の笑福亭竹林さんをお迎えして「子育ては楽しく！次世代を豊かに生き抜く子どもたちのために」をテーマに落語と講演をいただきました。また、「うしろさ」をテーマに落語と講演をいただきました。子育ては楽しむもの！と終始笑いの絶えない中にも子育ての楽しさ、子どもとの向き合い方を自分の経験論を含めて教えてくれる楽しい講演会でした。

参加された方々、スタッフより「笑顔が見られたこと、お帰りの際に「ありがとう」のお言葉をいただいたこと、本当にうれしくありがとうございます。

学校・家庭・地域などの皆様の周りの様々な場で「笑顔とありがとうがこだまするよう」と願っております。

連合会研究大会

分科会

平成25年10月26日(土)
ユー・アイふくい

第1分科会(子育て委員会)

自己肯定感を育て、心を元気にする方法

子育て委員長 渡邊 ルミ子(福井市 成和中学校)



第1分科会では「自己肯定感を育て、心を元気にする方法」子どもたちが自分のことも家族や友達のことでも好きになるために」とのテーマのもとに、鯖江市・立待小学校の岩堀美雪先生をお招きし、自己肯定感を育てる方法を学びました。

まずは先生が実際の現場で活用されている「宝物ファイル」を、写真や映像を交えてご紹介くださいました。子どもたちの心の成長とともにまった「宝物ファイル」が、自己肯定力という力になって、その後の子どもたちを強く支えていくその実際に触れさせていただきました。

またワークショップでは、「我が子のいいところ」をランダムに書き出してみました。子どもの長所を見つめ返すことで、改めてこの手で育てた「宝物」の大きさを確かめることができました。

先生からはサプライズプレゼントとして歌のご披露をいただくなど、涙あり笑いありのなか、心が元気になるための最大要因である自己肯定感について、みんなで楽しく学びを深めることができた分科会でした。

第2分科会(生涯学習委員会)

ちよつと気になる隣の三原則

生涯学習委員長 松本 知恵美(大野市 開成中学校)



生涯学習委員会では、あいさつ、早寝早起き、感謝などキーワードを決め、各家庭における問題や、他の家庭からの子どもたちとの関わりをヒントにして、生活習慣を見直すための気づきを得ていただけたいと考えました。

*学年が上がる毎に会話や関わる時間が減っていく
*母親とは話すが、父親とは距離を感じる
*家庭でのルールは子どもと一緒に考えて作り上げる事が教育につながる

*早寝早起きや片付けなどは、小さい頃からの習慣づけや、生活リズムが大切である

大人も子どもの目線で会話ができれば、「いい時間だった」「挑戦してみます」などの言葉をいただけて、とても嬉しく思いました。子どもときちゃんと向き合い、子どもたちの健全育成を目指していけたらと思います。

参加していただいた方々に心より感謝申し上げます。

第4分科会(環境委員会)

みんなで語ろう福井の自然「ヤシヤゲン」ロウから学ぶ

環境委員長 能美 浩志(敦賀市中郷小学校)



第4分科会では、今回参加していただいた方に、学校周辺や地域にあるたくさんさんの「自然」をご紹介いただき、素敵な自然マップを作成することができました。私たちは、この福井の宝(自然)を守ると共に、子どもたちと一緒に自然に触れあい、残していくために語り合いました。

はじめに旧今庄町教育長の奥野宏先生より、
*自然は子どもたちにとって教科書であり、豊かな感性を伸ばしていくものである
*「自然を学ぶ」答えはひとつではなく、みんなの意見を聞き学ぶことが大事

についてご講演をいただきました。

その後、学校・家庭・地域で実際に行っている自然保護について話し合い、
*親子で自然に触れ合い、虫や魚をつかまえてもよく観察して返してあげる
*地域・学校が協力してホタル等を育てて川に放流したり生態観測を行う
*田植え、畑での収穫を経験し、自然の恵みに感謝する
等の活動事例及び今後に必要な活動について共有化を図ることができました。

第5分科会(特別委員会)

楽しいPTA活動に目覚めて(単位PTA活動における諸問題についての意見交換)

特別委員長 朝倉 富成(福井市 社中学校)



特別委員会では、「PTA主催行事の参加率が低い」「PTAへの意識が低い」「役員の受け手がいない」「様々な情報が少ない」など、単位PTA活動における諸問題についての意見交換を行いました。60名近くの参加希望がありましたので、参加者で抽選を行い、10名ずつの班に分かれていただき、それぞれの班で問題についての討議を行ったあと、最後に各班から出された問題点について発表いただきました。

特別委員会の委員は、県PTA連合会の前年度の常任理事退任者で構成されており、長年PTAの役員として活動されているので、その経験をアドバイスしたくため、各班にアドバイザーとして入っていただきました。

全体発表の中で、各班から役員の選出についての方法や、参加者が多い活動や、またそれぞれの特色ある活動の発表をいただき参考になったことが多くありました。

反省としては、1時間という限られた時間内でしたので、班以外の方との意見交換ができなかったことや、解決策までは言及することができなかった課題もあり、少し残念な思いも残りました。

この分科会をきっかけにして、特別委員のアドバイスや他の学校の取り組みを参考にしたいといただき、楽しいPTA活動や活発なPTA活動に繋がればと願っています。

第55回 福井県PTA

第3分科会(広報委員会)

広報さんいらっしゃーい！

広報紙コンクール優秀校からヒントを盗め！

広報委員長 板倉行規
(鯖江市 鯖江中学校)

第3分科会は広報委員会の担当という事で、昨年度の県P広報紙コンクールで上位に入賞された学校の広報紙担当者にお越しいただき、魅力ある広報紙を作るためのヒントを聞くためのパネルディスカッションを実施しました。人の集め方、引き継ぎの仕方、内容の考え方、打ち合わせの仕方など、各校それぞれに「なるほどなあ」と思わせる話をたくさん聞かせていただき、運営側の我々も大変参考になりました。この分科会を開催したことによって、福井県の学校の広報紙がいつか文部科学大臣賞を受賞する日が来ることを期待します。

広報委員 坂 昭宏
(福井市 和田小学校)

広報紙作成は各校共通性の題材で他校を知るチャンスが満載なテーマです。

当日の記録係としての大分殿り書き状態のメモを読み返すと、パネラーの皆様の発言からは、テーマの選定準備、PTA会員からまんべんなく意見聴取し取材、分析、必ず読みたくなる紙面作りを第一とした使命感が感じられます。

今回、パネラー参加校でもあり大変責任も感じましたが、他校の方に対し参考となる事例が届けられたら幸いです。

広報委員 佐々木啓介
(福井大学附属小学校)

やはり担当者の気持ちがいこもった広報紙は説得力がありますね。

パネルディスカッションの題材として採用させていただいた3校の広報紙には、編集担当者が感じている学校を中心とした様々な話題や問題点に正面から向き合い掲載内容を熟慮検討した苦労と努力を強く感じます。読みやすい紙面デザインの追求とともに、過去の広報紙の変遷を十分に考察して取り上げるべき云々の話題に知って欲しいという気持ちを含めて情報発信する。熱い内容は読み手に対し強い印象を与えるものと今更ながら感じました。

広報委員 持田 正人
(福井市 木田小学校)

初の試みであった「分科会」で、どのような事をしたら良いか当初は悩みましたが、広報の原点である「知ってもらう事」を念頭に置き、各学校の方々に広報紙を制作する上での工夫や苦労、現状を広く知ってもらい、それぞれの学校での広報活動の参考にしてみたい、と考分科会を行いました。

アンケートなどを取らなかったで、どのように思われたかは分かりませんが、何かに活かしてもらえれば幸いです。



広報委員 長岡 渉
(勝山市 荒土小学校)

当日は撮影係をつとめました。役員と参加者の両方の立場で参加し、各PTAの広報紙編集への熱い想いを直接、肌で感じました。ファインダーを通して見たパネリストの真剣な顔つき、語りからは、広報紙に必要なものは、見せるためのテクニックではなく、「保護者が何を知りたいか」「どんな情報を発信して共有したいか」を常に考えることであり、それが読者を惹きつける秘訣であることを学びました。

広報委員

木下 幸太郎
(鯖江市 中央中学校)

この委員会に関わるまで、広報紙に対する思い入れもなく、単なる役員顔見せの資料程度の認識しか持っていなかったのですが、賞を受賞された優秀な広報紙をみさせていただくと、創り手の魂、何とかしなきゃの危機感、それを覆いこむ前向きな強い意志を沸々と感じました。生徒や児童だけでなく、保護者のお役に立てる広報紙の存在を知り、自身の認識を改めた一年でした。学びの機会を与えていただき感謝申し上げます。

広報委員

片山 真一郎
(美浜町 美浜中学校)

仕事等で打ち合わせ会議にも出席できず、本番当日のみの参加となりました。

分科会では、参加者の案内や記念撮影の補助等が主な役割でしたが、板倉委員長をはじめ優しい先輩達のおかげで無事に終了することができました。

記念撮影の時のカメラマン持田さんのしゃべりは最高でした。

広報委員 藤井 智正
(越前市 南越中学校)

研究大会当日は、単Pの行事と日程が重なり参加できませんでした。事前の広報委員会の打合せでは、他校のPTA広報紙を見る機会はあるにないで、我々広報委員会が担当する分科会では、その機会をつくらうということになりました。タイトルも「広報さんいらっしゃーい！」にぶつつけのリハールでは、パネラーとして協力いただいた3校の広報担当の方々が予想以上にいろんなことを話していただいで、これはもう本番もだいじょうぶだなあと感じました。

一筆啓上・我が家の三原則

今回もたくさんのご応募ありがとうございました。
ここでは会長賞（2作品）と優秀賞（8作品）を紹介させていただきます。

会長賞

坂井市 大石小学校 5年 増田 葉月

- 一 ご飯の時は家族そろって、「いただきます」
- 二 楽しかったことも悲しかったことも家族みんなで話す
- 三 ふだん帰りがおそいお父さんにはおもしろい笑顔で「おかえり」と言う

葉月へ

あいさつも会話も一人じゃできないことはかり。どうせするなら笑顔で言えたらいいね。うれしさ倍増だよ。

ママへ

笑顔で言ったら笑顔の返事が返ってきたよ。それに笑顔がママにそっくりだって。やっぱりうれしさ倍増だね。

会長賞

あわら市 芦原中学校 1年 岡崎 拓郎

- 一 ご飯はしっかり食べる
- 二 玄関にくつをいっばいさない
- 三 野球のユニフォームは自分で洗って干す

お父さんへ

職場見学の時、お父さんのパソコンのデスクトップに僕の顔写真があつて、おどろき、はずかしかったよ。

拓郎へ

野球をしている時、拓郎の一瞬見せる真剣な表情の写真をみると、父も頑張れます。

優秀賞

若狭町 瓜生小学校 1年 池田 瑚々萌

- 一 たくさんはなそう
- 二 たくさんわらおう
- 三 たくさんたべよう

かあさんへ

いつもへんがおでわらわせようとするのはやめてね。たくさんはなしたいのにわらいすぎてはなせなくなるよ。

瑚々萌へ

大笑いするあなたの笑顔は家族みんなの宝物！みんなが元気でいられるようにこれからも沢山笑って話そうね。

大野市 有終南小学校 1年 青木 大來

- 一 元気にあいさつする
- 二 すききらいせずなんでもたべる
- 三 新しいことにチャレンジする

おとうさんへ

ちやれんじしたいこといっぱいあるんだよ。たくさんたべたげんきにがんばるから、おうえんしてね。

大來へ

いろんなことにチャレンジしてすごいぞ！何でも食べて元気に育て！！明るい家族みんなで応援するぞ。

あわら市 金津東小学校 2年 堀口 颯汰

- 一 宿題をする時はテレビを消して集中！
- 二 イヤな事困った事あった時はかくさす話そう！
- 三 何事も一生懸命やる！

颯汰へ

一位になれなくても百点とれなくて

も大丈夫だよ。一生懸命やる颯汰の姿をいつも見たいんだよ。

お母さんへ

そんなにほくのことを思ってくれてありがと。そうゆうそうゆうおかあさんのことはほくがーばんしっています。

勝山市 成器西小学校 3年 舟田 早希

- 一 なんでも話そう
- 二 何かしてもらった時は、「ありがと」を言う
- 三 一日一回はぎゆうをする

早希ちゃんへ

「お休みなさい」の後いつも、ぎゆうとしてくれてありがと。ふしぎだね。一日の疲れが消えちゃうの。いつも、母ちゃんとぎゆうをする、その日があった、いやなことや思い出したくないことが消えていくの。

お母ちゃんへ

福井市 旭小学校 5年 佐々木 陽向

- 一 毎日キラキラ言葉！
- 二 毎日キラキラ心！
- 三 毎日キラキラ笑顔！

パパへ

ひなは、キラキラ言葉でみんなと仲良くするよ！みんな笑顔いっぱいになったらいいな。

ひなへ

ひなの笑顔で仕事の疲れも吹き飛ばすよ。キラキラ言葉で毎日やさしい気持ちで過ごそうね。

鯖江市 神明小学校 6年 岡辰之輔

- 一 いってきますのハイタッチ
- 二 ただいまの笑顔
- 三 おやすみなさいの反省会

母へ

毎朝、決まった時間に起こしてくれてありがと。どんな目覚まし時計よりも、正確で確実に起きるよ。

辰之輔へ

辰之輔起きてー起きる時間だよ。もう何百回言ったかな。後、何百回の言葉で起きてくれるかな。

鯖江市 鯖江中学校 1年 白木 健太郎

- 一 お互いがケンキョに生活する
- 二 「人」として支えてもらっている感謝の意をもつ
- 三 何事にもチャレンジ！！

母へ

鍵を開ける音がして、母さんが帰ってくるとホッとします。これで一日終わったーって、そんな気になるよ。

息子へ

当たり前のように帰ると笑顔の家族がいて、一緒に過ごしているけど、これがどんなに幸せか、身にしみます。

福井市 社中学校 3年 松田 成美

- 一 毎日、笑う
- 二 朝ごはん「行ってきます。」を忘れない
- 三 一週間に一回は家族がそろう日を

お母さんへ

どんなことでも笑い飛ばしてしまおう、強くて優しいお母さんが自慢です。私もお母さんみたいになれるかな。

成美へ

お母さんもういっ事たくさんあったけど、笑って過ごしていればどうにかなっちゃった。大丈夫だよ！！

ドクター通信



食物アレルギー

福井県PTA連合会安全審査委員
(田中病院院長) 田中 廣昌

給食でのアレルギー事故

まだ記憶に新しいことだと思えますが、一昨年12月、東京・調布市の小学校で、5年生の女の子が学校給食のチヂミを食べてアナフィラキシーショックを起こし、亡くなるという痛ましい事故がありました。チヂミの中に入っていたチーズが原因でしたが、事故発生時の対応のまずさなど、問題点も多々あったようです。学校給食でのアレルギー事故は増加傾向がみられ、平成23年度には311件が報告されており、正しい対応を考えておくことも必要だと思えます。

食物アレルギーとは

多くは食物を摂取後、数分から数時間以内に気持ちが悪くなったり、蕁麻疹、嘔吐や腹痛、呼吸困難などがおこる状態を食物アレルギーといえます。

これらの症状が短い時間で全身に複数、急激に出て、血圧や意識が低下した状態をアナフィラキシーやアナフィラキシーショックなどと呼びます。つまり、アナフィラキシーはアレルギーのなかのひとつですが命にかかわることもあります。

食後すぐに症状がでる即時型、数時間以上経過してから湿疹の悪化や下痢などがみられる遅延型などがあります。

免疫反応の誤作動がアレルギー

私たちの体には、ウイルスや細菌などの異物(これを抗原といいます)が入ってきたとき、これらの外敵をやっつけようとする「抗体」が体の中につくられます。このような仕組みを疫病から免れるという意味で「免疫」と言います。

ウイルスや細菌などに一度感染すると、抗体が作られ免疫ができ、再び感染・発病しないのはこのような仕組みによるものです。

ところが、この免疫の仕組みが、食べ物や花粉など私たちの体に害を与えない物質に対しても有害な物だと認識して過剰に反応し、攻撃をしすぎる結果、逆にマイナスの症状を起こすのがアレルギーです。

本来は体を守るはずの反応が、自分自身を痛めつけるアレルギー反応に変わります。

原因も症状もさまざま

鶏卵、牛乳、小麦は三大アレルギー(抗原)と呼ばれています。他にも食物アレルギーの原因となる食物には、そば、ピーナッツ、エビ、カニなどの甲殻類、果物、豆類など多種多様で、食物衛生法によりリスクの高い7つの食品が特定原材料の表示を義務づけられています。また、表示義務はありませんが、特定原材料に準じるものとして20品目の表示

が奨励されています。

乳幼児の主な原因物質は三大アレルギーですが、学童期以降になると甲殻類や果物類なども加わってきます。

症状も人によってさまざまで、皮膚症状は即時型食物アレルギーの症状としてはもっとも多く、蕁麻疹やかゆみ、発赤などで患者さんの9割にみられます。

呼吸器症状は皮膚症状の次に多く、咳、くしゃみ、呼吸困難、ゼーゼー、ヒューヒューなどの症状です。

粘膜症状として口の中に違和感があったり、唇、口の中、喉が腫れるなどの症状や喉の粘膜が腫れてくることもあります。この場合、気道が狭まり声がれや声が出なくなったりし、進行すると窒息の可能性もあります。

その他に、消化器症状として腹痛、嘔気、嘔吐、下痢などの症状がみられますが、いずれも程度にはかなりの差があります。

アレルギー対策

対策でもっとも大切なことは抗原(敵)を知る、即ち何が自分のアレルギーなのかを知ることから始まります。食事の後におかしいなと感じたら、医師に相談することです。何を、いつ、どのくらい食べ、どのくらい後に、どのような症状が現れたかや家族歴などが診断のポイントになります。必要に応じて血液検査をはじめいろいろな検査を行いアレルギーを決定します。

次にアレルギーがはっきりしたら、医師の指導のもと原因食物を食べない「食物除去」を行います。ただし、

栄養不足や健康、成長に影響が出ないよう、除去は必要最小限にとどめるべきです。

3番目にはアレルギー物質を食べてしまった場合の対策です。対応マニュアルを完全にしておくこと、症状のいかに問わず医師の診察を受けることです。

血圧を上げるホルモン、アドレナリンの自己注射「エピペン」の携帯や、本人を含め周囲の人たちが、実際に使えることも大切です。

治療法

決定的な治療法はありません。経口免疫療法という、抗原物質を、アレルギー反応が起きない程度の極少量を与え、徐々に増量して耐性をつけてゆく方法が研究されています。しかし、危険も多く必ず医師の指導のもとで慎重に実施してください。アメリカでは17才以下の7%が食物アレルギーに苦しんでいると推定されており「食物アレルギー啓発週間」が設けられています。

我が国でも不幸な事故の再発を防ぐために万全の対策がとられるべきだと思います。

特定原材料(表示義務食品)

卵、乳、小麦、エビ、カニ、そば、落花生

準特定原材料(表示奨励食品)

アワビ、イカ、イクラ、オレンジ、カシューナッツ、やまいも、キウイフルーツ、牛肉、くるみ、ごま、鮭、サバ、ゼラチン、大豆、鶏肉、バナナ、豚肉、松茸、桃、リンゴ

日本PTA全国協議会 表彰式

日本PTA創立65周年の歩みを感じて

福井県PTA連合会 副会長 佐々木敦子
(福井大学附属中学校)

去る11月19日、日本PTA創立65周年記念式典が秋篠宮同妃両殿下をお迎えして厳粛に開催されました。

ホテルニューオータニ式典会場には、1300名を超えるPTA会員が参集し、式典、講演会が盛大に執り行われました。

本年度の優良PTA文部科学大臣表彰に、武生第六中学校PTA、永平寺中学校PTAの2団体が受賞されました。また、5年に一度の個人表彰・PTA活動振興功労者表彰には、前福井県PTA連合会会長木村正俊氏が受賞されました。

日本PTA会長表彰には、2団体と個人4名の方が受賞されました。

また、多年に渡りPTA活動に貢献された15人の方々に、特別表彰の

感謝状が贈られました。

式典終了後、文部科学事務次官・山中伸一氏の「これからの社会と教育」と題して、世界の中で通用する人材を育てていくという記念講演があり、深い感銘を受けました。これから益々急速に進展する教育改革やグローバル化にともなう変化に、私たち親が子どもと共に順応していく事が大切だと感じました。

終戦間もなく、保護者と教員が子どもたちの幸せのためにたゆまない努力をされ、家庭と学校の架け橋となつてこられたPTA65年間の歩みと、その熱い思いに感動し、社会の希望である子どもたちを育む重責を感じた記念式典でした。

福井県PTA関係の受賞者のみなさま

●文部科学大臣表彰

(団体)

越前市武生第六中学校PTA
永平寺町永平寺中学校PTA

(個人)

木村 正俊

●日本PTA会長表彰

(団体)

大野市上庄小学校PTA
鯖江市中央中学校ゆかりの会

(個人)

杉田 信悦

松永 恵美

(特別表彰)

中村 宗玄

潮木 雅代

辻 人志

清水 和夫

浅野 好一

濱野 純行

高畑 徹

脇田 淳子

伊藤 千鶴

桂田 定樹

白越 不朝

清兼 勝己

中村 省一

櫻庭 光徳

西野 里佳

妙願 貴子

三木 章史

(敬称略)

福井県選出国會議員への請願活動報告

特別委員長 朝倉 富成(福井市社中学校)

秋晴れの平成25年11月20日、山本会長他、県PTA連合会役員16名が、「ふるさと福井における教育に関する要望」請願のため、本県選出の国會議員の方々へ面会にまいりました。

山崎正昭参議院議長には、議事堂内の参議院議長応接室で、山谷えり子参議院議員には議事堂内の自民党政策室で、助田衆議院議員、山本衆議院議員、高木衆議院議員には、議員会館執務室で、直接懇談をさせていただきました。稲田大臣、滝波参議院議員は秘書の方を通じて、要望書を手渡ししました。

○ゆきとどいた教育支援のための予算充実

○安全安心、施設の充実、学習環境の充実

○いじめのない社会、心が明るく強くなる社会基盤の構築

○防災教育、家族の絆ふれあいを深める活動推進

○スクールカウンセラー、スクー

ルソーシャルワーカー等の配置増員

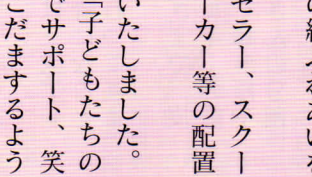
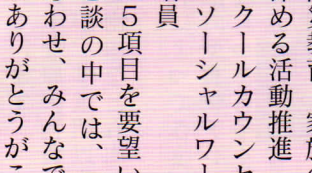
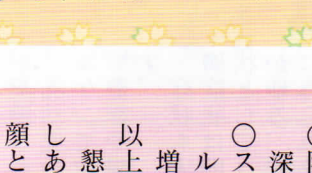
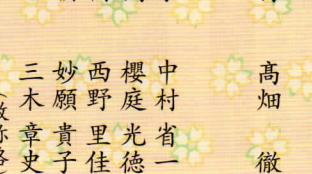
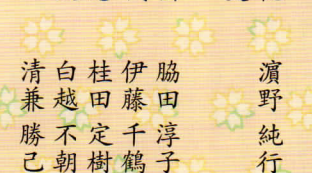
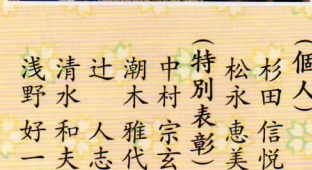
以上5項目を要望いたしました。

懇談の中では、「子どもたちのしあわせ、みんなでサポート、笑顔とありがとうがこたますよう

に」のスローガンのもと、県PTAは活動しており、心身ともに、豊かな児童生徒の育成と、家庭教育力の向上を目指す中、子どもたち一人一人に応じたきめ細やかな教育が必要なことを強く訴えてまいりました。

また、議員の方々から、全国学力テストや体力測定において全国トップクラスで、福井の教育は全国モデルとして注目を集めているのは家庭教育がしっかりと根付いているからではないかといった話題もありました。

福井の子どもたちの明るい未来のために、県選出の国會議員の皆様の一層のご活躍を願っております。



西川知事と県PTA連合会役員との懇談会

総務委員長 栗原 泰道(坂井市 木部小学校)

平成26年1月17日に県庁6階会議室にて行われた、西川知事、林教育長、各関係課長と、福井県PTA連合会役員との懇談会についてご報告いたします。

(1) 福井県の教育方針について

教育方針の話題の中で、特に英語教育についての話題が中心となりました。英語に関して知事は、受験のためだけではなく、コミュニケーション能力を高める英語教育を重視しているようでした。英語は日々の積み重ねで習得していくものであり、家庭での英語環境も重要である。私たち保護者も朝のラジオなどを利用して家庭での英語環境をつくることも大切だということでした。もちろん先生もがんばる必要はあり、学校での英語教育にもさらに力を入れていきたいということでした。

また、中高一貫又は連携教育校の方向性については、全国的に見てみると失敗している例もあるとのことなので、まだ慎重なようです。成功させるための環境としては、まわりに学校がいくつもあり、高校と中学を連携する必要があること。対象生徒数が少ないところでは人も集まらない、レベルも上がらないという状態

になる例も県外ではあるようです。

(2) 豊かな心を育む教育について

道徳教育については未だ減ることはないいじめ問題について話題になりました。

いじめ問題に関して、県としても対策などについて取り組んではいるものの、非常に難しい問題であり、なかなか解決に至らないようです。「他人に対していじめを行うことより、もつと楽しいこと、熱中できることがあればいじめをするという気持ちにならないのではないだろうか」、「お互いを認めることができればいじめはなくなるのではないか」、「いじめはつまらないものだと思うような気持ちになれるような人間性のレベルになるという教育ができたらなくなっていくのではないか」、「家庭や保護者も含めていじめをするという気持ちにならないような環境づくりのためには、私たち親も態度や姿勢を改めたり、積極的に意見や情報を取り入れ、理解し行動することが必要である」、「LINEの問題も含め、学校教育の中でももつと他に楽しいことや興味を持てるように、他の分野で活躍している大学生や若い人たちに学校に入ってもらい

(3) 福井の子どもたちの様子について

講演や楽しい活動などを児童・生徒たちに経験させるようなことにも取り組んでいる」というような意見でした。いじめ・LINEなどの問題に関しては家庭・学校・地域などの子どもたちを取り巻く環境の大切さを改めて考えさせられ、県PTA役員としてもいろんな方向から取り組んで行く必要性を感じました。

知事が思う最近の福井の子どもたちの印象は、質問に対して同じような返事が返ってきたり、まわりを気にしすぎていたり、少し個性・表現力・おもいきりに乏しいように感じているという感じです。最近の子は塾やらスポーツやらで忙しい中ですが、是非何か熱中できるものを見つけて続けてほしいとのこと。ちなみに知事のおすめは楽器だそうです。



最後に出席した福井県PTA連合会役員全員が今感じていることを知事にお伝えし、懇談会を終了しました。1時間という短い時間でしたが、教育・子育てに関する積極的な意見交換ができ、時折年末にご訪問されだくなど、なごやかで充実した懇談会となりました。

文部科学省委託事業・福井県PTA連合会 研修会

ネットモラルキャラバン隊

平成26年2月1日(土)
ユー・アイふくい

環境委員長 能美 浩志(敦賀市 中郷小学校)

研修会当日は450名もの方々にご参加いただき、あらためてネット問題についての感心の高さを感じました。

まずは、文部科学省・関根章文氏より「子供の携帯電話やインターネットをめぐる問題に関する取組」有害情報から守るために」との演題にて、また総務省・綿谷信義氏からは「スマートフォン等の安心・安全な利用環境の整備に向けた取組」として、各省庁のネットモラルに関する対応についてご説明をいただきました。

続く、ネット教育アナリスト・尾花紀子氏によるご講演「ネットに依存しない子、ネットを賢く安全に使える子を育てる」今ながに起きているかを知り、ななができるのかを考えよう！」では、ネット問題に取り組む上で意識すべき4つの「鏡の



法則」を踏まえ、ネットを日常的に利用する現在の子どもたちに対して保護者として知っておくべき子どもたちの直面するリスクとその回避法について具体的に教えていただきました。ネットの構造や特性を踏まえた上で、安心な利用環境の整え方、身近なお手本としての大人の使い方などをご教示いただいたご講演は、時には命を救うこともあるネットやスマホの存在価値を認めた上で、それを子どもが安全に使用するために、親の責務として「今」しなければなら

ない対応を学ばせていただきました。また前述の尾花氏、関根氏に加え、福井県教育委員会・水谷善長氏、(株)ディー・エヌ・エーコーポレートアライアンス・朝倉孝之氏、福井県PTA連合会副会長・田本憲恭氏をパネリス

トに迎えたパネルディスカッションを行いました。

安心ネットづくり促進協議会・石原友信氏をコーディネーターに、「見えてきた！『青少年ネット課題』にどう向き合う？」とのテーマで、国・福井県・企業としてそれぞれのネット教育への取組の詳細や、丸岡中学校でのアンケート結果をもとにした現在のネット環境への問題点・対応の方法について、さらには情報社会のなかでこそ大切にしたい情報モラルを含めた人間力形成の方法についてなど、多岐にわたる項目についてご討論いただきました。

長時間にわたる研修ではありましたが、ネット世代の子どもたちに向き合う親としての在り方を学ばせていただけた、実り多い研修会でした。

編集後記

この1年を振り返ってみて、本年度は広報委員というところでいろいろな場所でも多くの写真を撮影させていただきました。そしてよくわかったことはカメラって本当に難しいということ。あんなにたくさん撮影したのに使えそうな写真はほんのわずかしかな。あらためてプロのカメラマンに敬意を表します。

10月に開催された県PTA研究大会の広報委員会の分科会で広報紙についていろいろ勉強させていただきましたが、少しはこの号に反映されておりそうです。

最後に、本年度の県PTA広報紙に関わってくださいましたすべての皆さま、本当にありがとうございました。

広報委員会 委員長 板倉行規